

令和7年産水稻の出穂状況について（7月29日現在）

1 出穂状況等（概況及び今後の管理）

- 7月29日現在、水稻作付面積の44.5%の水田が出穂期^{※1}を迎えている。県全体の出穂始期^{※2}は7月25日で平年より3日早い。
- 降水量が少なく、今後も高温が続くことが予想されているが、出穂直前から穂揃期は稲が最も水を多く必要とする時期なので、限られた用水で土壌を湿った状態に保つ「飽水管理^{※3}」を徹底する。
- 斑点米カメムシ類は平年より多く、やや早く発生している。防除時期が遅れないよう出穂状況を確認し、「穂揃期」と「その7～10日後」の2回防除を基本として薬剤防除を実施する。ほ場内に雑草が残っている場合は、1回目の散布時期を「出穂始～穂揃期」に早めると効果が高まる。

※1 出穂期（しゅつすいき）：ほ場内の50%以上が出穂に達した時期

※2 県全体の出穂始期：水稻作付面積の5%以上が出穂期に達した時期

※3 飽水管理（ほうすいかんり）：水田にある足跡に水が溜まる程度に土を湿潤状態に保つ水管理方法。

必要とする水の量が少なく、出穂後高温による玄米の品質低下を抑制する効果がある。

2 出穂状況（具体的データ）

（1）県全体

区分	出穂始期 (5%)	出穂期 (50%)	穂揃期 (95%)
本年	7月25日	未	未
平年	7月28日	8月1日	8月9日
平年差	3日早い	—	—
(参考)前年	7月24日	7月29日	8月5日

※平年値は平成27～令和6年の10ヶ年のうち最も早い年と最も遅い年を除いた8ヶ年の平均値。

（2）地方振興事務所・地域事務所別

地区名	水稻作付面積(ha) [注]	7月29日現在出穂状況		出穂(月日)			(参考)平年値		
		出穂面積(ha)	進行率(%)	出穂始期	出穂期	穂揃期	出穂始期	出穂期	穂揃期
大河原	6,060	3,641	60.1	7/22	7/28	未	7/26	7/30	8/9
仙台	10,678	5,231	49.0	7/25	未	未	7/28	8/1	8/8
大崎	16,581	9,656	58.2	7/25	7/27	未	7/28	8/1	8/8
栗原	8,638	1,277	14.8	7/26	未	未	7/28	8/1	8/10
登米	9,116	3,099	34.0	7/26	未	未	7/29	8/1	8/7
石巻	6,529	2,968	45.5	7/26	未	未	7/28	8/1	8/9
気仙沼	617	55	8.9	7/29	未	未	7/31	8/4	8/10
県計	58,219	25,928	44.5	7/25	未	未	7/28	8/1	8/9

[注]作付見込面積は令和6年産の水田における作付状況(令和6年9月15日時点)の主食用米面積を用いた。

※出穂始期、出穂期、穂揃期は、進行率がそれぞれ5%、50%、95%に達した時期をいう。

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

※平年値は平成27～令和6年の10か年のうち最も早い年と最も遅い年を除いた8か年の平均値。

（3）地帯区分別

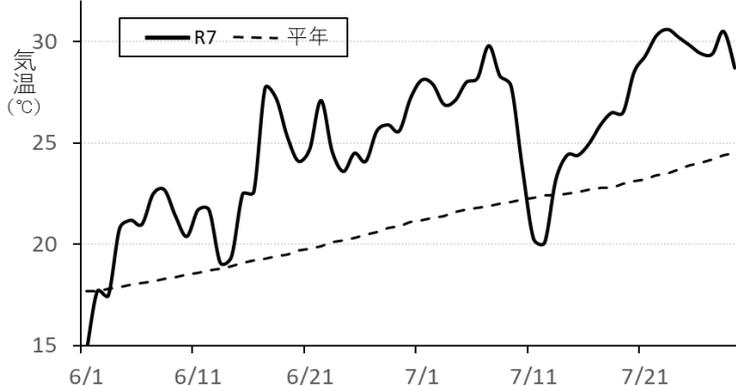
地帯区分	水稻作付面積(ha) [注]	7月29日現在出穂状況	
		出穂面積(ha)	進行率(%)
山間高冷	850	64	7.5
西部丘陵	4,831	2,459	50.9
北部平坦	38,907	16,983	43.7
南部平坦	4,943	3,201	64.7
三陸沿岸	1,203	279	23.2
仙台湾沿岸	7,484	2,942	39.3
県計	58,219	25,928	44.5

[注]作付見込面積は令和6年産の水田における作付状況(令和6年9月15日時点)の主食用米面積を用いた。

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

3 気象経過（仙台アメダス）

平均気温の推移



時期	平均気温(°C)		降水量の合計(mm)		日照時間(時間)	
	平年差	平年比	平年比	平年比	平年比	
6月	22.8	3.6	62.5	43%	213.3	148%
7月 月上旬	27.6	5.8	4.5	7%	54.6	144%
中旬	24.5	1.8	14.0	21%	55.3	145%
7/21~29	29.8	5.7	0.0	0%	94.5	189%

※次回は8月1日の調査結果を8月4日に発表予定です。